

平戸の風について*

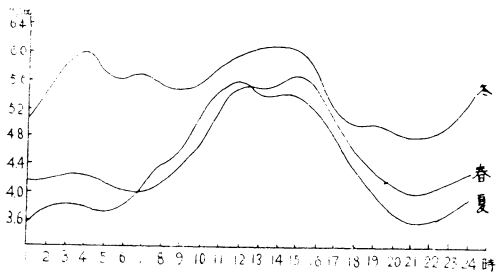
緒川 弘 甫**

1. まえがき

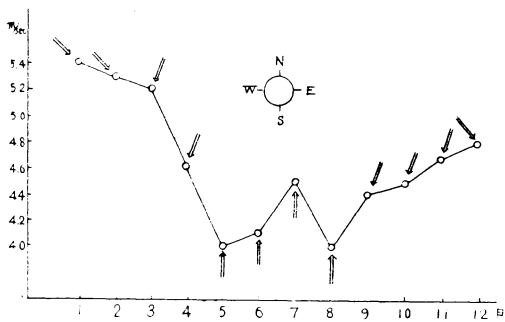
長崎県の平戸は近くに数ヶ所の漁港をひかえているため、風の照会が日夜かなり多い。この点を考慮に入れ、平戸における風について簡単な統計的調査を試みたので、ここに報告する。資料は1940年から1959年までの20ヶ年の平戸測候所の風の記録である。

2. 風速

平均風速の日変化を、季節別に見ると第1図からわかるように春、夏、秋はほとんど同じ変化をし、夜間は一般的に弱く日中強くなり正午から15時にかけ最大に達する。冬は夜半頃から次第に強くなり、午前一時弱まるが14時頃最大となり、日の入りと共に弱まる。春(3~5月)、夏(6~8)、秋(9~10月)、冬(12~2月)の年変化は第2図に示すように1~3月に風が強く5月、8月に最小が現われている。



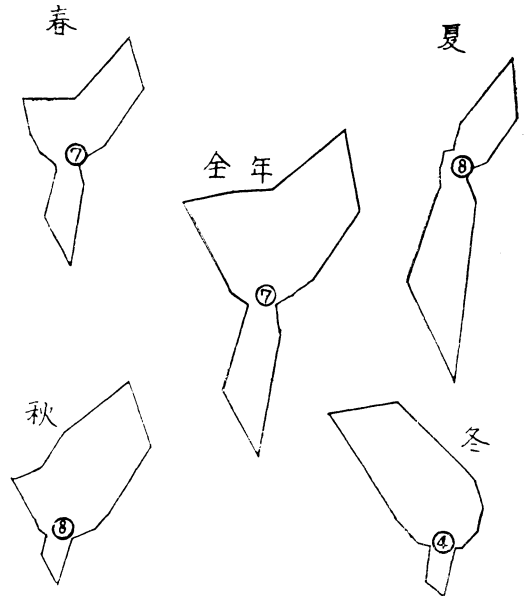
第1図 季節別風速日変化



第2図 風速の年変化(矢印は最多風向)

3. 風向

各風向の年間の分布は第3図に示すように、季節別にはっきり区別できる。冬は北西の季節風、春と秋は北東の風がまた夏は南風が卓越し、年間を通じて、北西、北北東、南に三分されて、西より、東よりの風は極端に少くなっている。また静穏は夏から秋の夜間に多く冬は少い。(1日24回観測)



第3図 季節別 ウィンドローズ
(円内は静穏百分率)

4. 強風風向別回数

9月から11月にかけて北東の強風が、12月から3月にかけて北西の風が多く吹き1年を通じても北西~北~北東の風が80%で、東北東~南東、南西~西の風は非常に少く東の強風は皆無となっている。

(ここでいう強風とは毎正時の平均風速が10m/sec以上をとった。1950~1959年)

5. 強風継続時間

平均風速が10m/sec以上吹きはじめてから吹き終わりまでの時間が6時間以上あったものを、6時間ごとの吹続

* On Wind of Hirado

** Kouho Ogawa. 平戸測候所-1960年10月15日受理

第1表 10m/sec 以上風向別発現回数 (1950-1959年)

風向 季節	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	合計
春	117	348	136	9			5	81	124	52	15	2	7	46	243	95	1,280
	50%									20%			30%				
夏	34	95	63	18		7	9	39	132	119	6	2	1	1	8		534
	36%									54%							
秋	227	642	252	4			10	19	59	24	8	3	2	13	100	88	1,451
	77%																
冬	81	145	83	11			2	14	28	14	6	6	11	85	923	380	1,789
													78%				
全年	459	1,230	534	42	0	7	26	153	343	209	35	13	21	145	1,274	563	5,054
%	9.1	24.3	10.6	0.8	0.0	0.1	0.5	3.0	6.8	4.1	0.7	0.3	0.4	2.9	25.2	11.1	100.0

時間別に発生回数を調べると第2表のように6~12時間継続したものが最も多く19時間以上となると急激に少くなる。24時間以上吹統するものは9月から3月にかけて多く発現し、1年に5~6回で48時間以上吹統することも年に1回くらいある。また平均風速が10m/secになる時刻は、冬は夕方から夜半すぎにかけて、春は9~11月頃、秋は正午から15時にかけて多く、吹き終りについては、吹きはじめの場合とは反対に、冬と春は早朝に、秋は日没後に多くなっている。12時間以上の継続時間で毎正時において、10m/sec以下の風が1~3時間あってもその後10m/sec以上の風が続いておればそれも継続時間に入れた。(1950~1959年)

第2表 強風継続時間頻度

時間 季節	6~12	13~18	19~24	25~30	31~36	37~42	43~48	49~
春	52	14	4	8	2	2	1	1
夏	21	5	1	5	1	1	0	0
秋	35	13	5	10	4	3	2	3
冬	65	18	9	8	3	1	4	4
全年	173	50	19	31	10	7	7	8

109日を数え各月の日数は、第3表に示すように11月から4月にかけて最も多く10~14日で、1月は最も多く、多い年は月中20日位のこともある。15m/sec以上は1月、3月(季節風)および9月(台風)に平均2日を数えるだけで、ほかは割合少ない。

6. 暴風日数

10m/sec 以上を観測した日数は、年の30%におよぶ

第3表 暴風日数 (1950-1959年)

月 風速	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
10~15 m/s	124	106	115	98	61	51	63	38	57	75	86	93	967
15m/s以上	19	9	17	6	1	7	2	8	21	6	10	10	116
計	143	115	132	104	62	58	65	46	78	81	96	103	1,083
平均日数	14.3	11.5	13.2	10.4	6.2	5.8	6.5	4.6	7.8	8.1	9.6	10.3	108.3

第4表 季節別暴風頻度

季節	春	夏	秋	冬	年
%	27.5	15.6	23.6	33.3	30.0

7. 暴風の記録

暴風の記録は風速10m/sec~20m/sec程度の季節風によるものが回数が多いが、記録的な暴風となると、すべて台風によるものである。平戸における最大風速の極

は、36.8m/sec（北北西）1942年8月27日台風と季節風による最大風速および冬から春にかけておこる突風の累年順位は、つぎのとおりである。（1940～1959年）

第5表 台風による最大風速累年順位表

順位	1	2	3	4	5
風速	36.8	32.4	31.1	29.0	27.5
風向	北西	南々東	南々東	北々東	北々東

第6表 季節風による最大風速累年順位表

順位	1	2	3	4	5
風速	19.0	18.7	18.6	17.7	17.6
風向	北西	北西	北西	北西	北々西

第7表 冬期・春期最大瞬間風速累年順位表

順位	1	2	3	4	5
風速	26.5	26.9	25.5	25.1	24.9
風向	南	西北西	北西	北々東	北々西

8. まとめ

平戸付近において船舶の注意すべきときは、冬から春

にかけて、低気圧が東支那海、黄海から日本海にはいり、これに伴う寒冷前線が南下する時で、風向は南西から北または北西に急変し、前線の前後において瞬間風速15～20m/secの突風を伴うことが多い。これは発達した低気圧でなくても、しばしばあるので注意がいる。その後の高気圧の吹き出しによる10m/sec以上の季節風が半日から1日くらい続くことが多い。この季節風に注意することは勿論である。

7～10月の台風襲来期においては、台風が九州を縦断するか、西岸を通ると災害も記録的に増大する。1940年から1959年まで20年間の台風接近回数は54回で年平均2.7個となっている。

秋りん期には、暴風日数は春にくらべ少いが、北九州沿岸特有の北東の強風が1昼夜以上吹くことも少なく、25年11月に88時間も強風が続いたこともある。この時期にも船舶の被害、海岸地方の大波、高潮など大きな被害をおこすことがある。

以上は統計的調査の結果であるが、今後も局地的な風の特長などについて引き続き調べてみたいと思う。

参考文献

富高四郎（1959）：福岡県における下層大気中の風について，研究時報，11巻4号，p. 273—274。
 笠村幸男（1959）：九州地方の強風について，研究時報，11巻9号，p. 789—790。

新気象学用語について

桜庭 信 一

長く審議を続けてきた新気象学用語が昨年の春に事実上決定した。印刷公表されるまでにどれくらいかかるのか、文部省の事務的手続きもあるので、わかりかねるが、大部分はすでに案として関係方面に配布したものと同じだから、積極的に使っていただいて用語の混乱のないようにしたいものである。さしずめ気象集誌の和文アブストラクトは本年の1号から新用語にするつもりである。天気についてははまだ存住理事と話合っていないが、趣旨については格別の異論のないところだから、ご賛成をいただけたらと思っている。ちなみに気象庁の研究時報は一足先にこの方針で編集されていることを付記しておく。

さて新用語の案は全部の会員に配布されているわけではないから、知らないものはしょうがないとおしかりをう

けそうである。結局は文部省から気象学用語集として公刊されるまでは止むを得ないのだが、暫定的にわたしの名前で出した「気象学用語事典」でも参考にしていただければと思う（自著の自薦で恐縮だが）。

われわれの最終案が文部省での最終会議で変更をみたのはごくわずかで、次のように要約される。

案	決定
示数	指数
傾度	こう配
巻雲	巻雲（カンウンと読む）
くし型測雲器	くし形測雲器（形を表わす型はすべて形とする。ただし「寒冷前線型閉そく」のような語はそのまゝ）。